

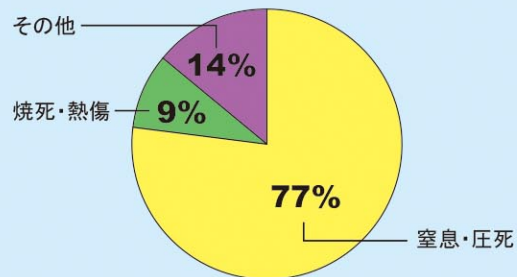
■どのような建物が危ないの？

建物の倒壊は死亡やケガにつながります

地震による死亡やケガの原因の多くは、建物が倒壊して下敷きになってしまうことです。阪神・淡路大震災でも、地震による直接の被害者の約8割が、建物や家具が倒れたことによる窒息死・圧死でした。地震の被害を防ぐには、建物の耐震化が重要です。

資料:「阪神・淡路大震災調査報告総集編」
(阪神・淡路大震災調査報告編集委員会、2000年)、
「人口動態統計からみた阪神・淡路大震災による死亡の状況」
(厚生省大臣官房統計情報部、1995年)

阪神・淡路大震災での死亡原因



こんな建物は要注意です

以下のような建物は地震で倒壊する危険性が高く、注意が必要です。

新耐震基準の
施行(昭和56年)より前に
設計された建物



写真:「阪神・淡路大震災木造住宅震災記録図説」
(財)日本住宅・木造技術センター平成9年10月発行

壁の配置にかたよがりがある、
一方に窓が多くあるなど、
バランスの悪い建物



腐食していたり、シロアリの
被害に遭っている建物

あなたの住まいは大丈夫？

耐震診断を受けましょう

地震対策の第一歩は、わが家の耐震性能を知ることです。大きな地震があってもわが家は安全なのか、耐震診断を受けて確かめましょう。耐震性の判断には建築の専門知識が必要です。外見に異常が見られなくても、専門家による耐震診断を受けることが必要です。



耐震性能が
不足して
いたら…

■建物の被害を軽減するために

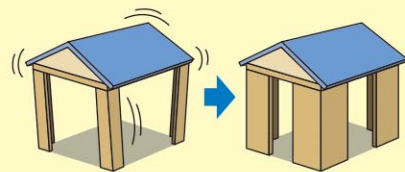
耐震改修を行いましょう

耐震診断で安全でないと診断された場合は、適切な耐震改修を行うことで安全性を確保できます。以下では、耐震改修工事の主な方法を紹介しています。専門家に相談してわが家にもっとも適した工事方法を選び、耐震改修を行いましょう。

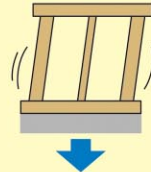
■耐震補強の種類

壁を補強する

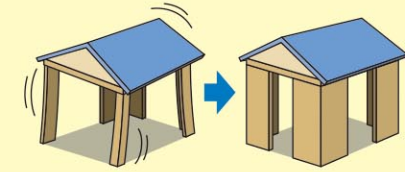
耐力壁を増やそう！
耐力壁の量を増やすと、建物は丈夫になります。



**揺れによる
ゆがみ**



耐力壁のバランスを良くしよう！
壁の配置にかたよがりがあると、地震で建物がねじれる恐れがあります。壁の少ない側に耐力壁を設ける補強をして、建物のバランスを良くします。



筋かいを入れる



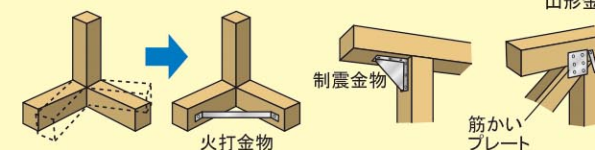
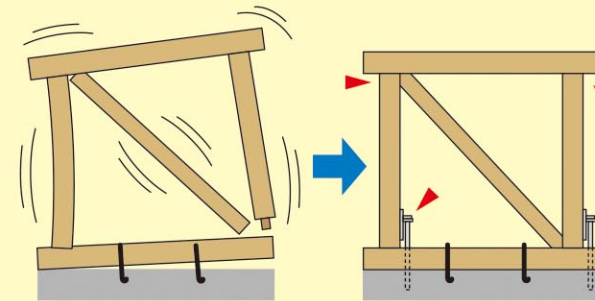
構造用合板で補強する

耐力壁とは…

ただのボードを張っただけの間仕切用の壁と区別され、構造用合板などを張り、想定される地震力に抵抗できる壁のことをいい、筋かいの入った壁も含まれます。

接合部を補強する

火打金物・制震金物・筋かいプレート・山形金物などで補強することで地震の揺れによるゆがみに耐えることができます。



屋根の軽量化

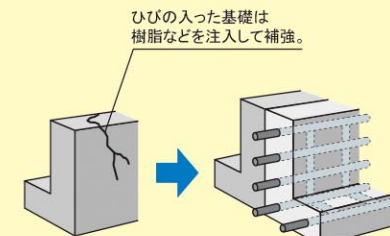
軽い材料の屋根に替えることで、耐震構造を向上！



軽量化については、耐震壁などの上部構造各部の補強と全体で考えましょう。

建物の基礎を補強する

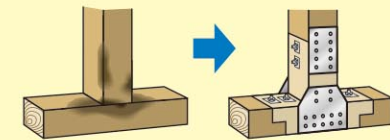
**土台が大切！
基礎の補強で建物の性能UP！**



無筋コンクリートは耐震性に乏しく、崩壊しやすい。
新たに鉄筋コンクリート造の基礎を抱き合わせます。

腐朽部分を補強する

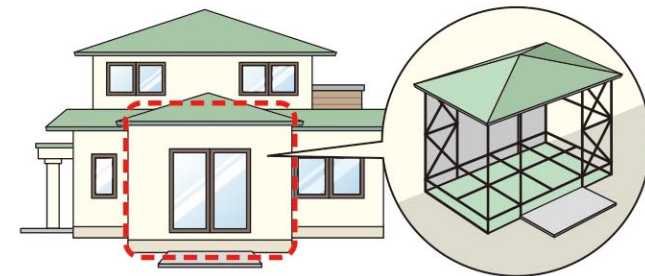
腐朽部分は新しいものと交換しよう！



劣化した部材を部分的に取り替えた場合、接合部が弱点にならないように補強しましょう。

ひと部屋だけを耐震化することも有効

家全体の耐震改修が困難な場合、ひと部屋だけでも補強をして安全空間を作っておくと、いざというときに逃げ込む場所として有効です。



橿原市では、耐震診断・耐震改修に対する補助事業を行っています

詳しくは、橿原市役所 建築指導課
(TEL:0744-22-4001代)までお問い合わせください。